

第42回 名古屋金春会 午後二時開演

番組

●能夕 顔 後シテ(夕顔上の霊) 前シテ(里)女 本田 光洋
 フキ盛僧 飯富 雅介 大鼓 河村真之介
 フキツレ從僧 梶元 正樹 小鼓 後藤嘉津幸 笛 大野 誠

アイ所の考 鹿島 俊裕

後見 金春 安明 水見 啓明 本田 芳樹
 安達 裕香 地謡 鬼頭 尚久 高橋 忍
 前田 登 井上 貴覚
 矢代 隆夫 本田布由樹

●能 鈍根草 シテ主人 佐藤 友彦 アド(太郎冠者) 大橋 則夫
 後見 佐藤 融

午後二時五十分開

《休憩二十分》

●能 加茂 井上 貴覚
 竜 田 本田布由樹 小島 芳樹
 船弁慶 金春 安明 地謡 鬼頭 尚久
 田中 雅之

●能 殺生石 後シテ(殺生石の精) 前シテ(里)女 金春 穂高 大鼓 河村総一郎 大鼓 加藤 洋輝
 フキ(安藝道入) 橋本 幸 小鼓 船戸 昭弘 笛 鹿取 希世
 アイ能刀 井上松次郎

後見 井上 貴覚 豊田 均 本田布由樹
 安達 裕香 地謡 廣瀬 雅弘 佐藤 俊之
 箕浦 剛 加藤 剛 金春 憲和 飛翔

附祝言

(終演予定 午後五時半)

■解説■ 飯塚 恵理人 (榊山女子園大学教授)
 夕顔 (ゆうがお)
 豊後から出た僧(フキ)が都の五条の辺りで、「山の端」の和歌を吟ずる女(前シテ)の声を聞く。僧が女にこの所の名を問うと、光源氏と夕顔の上が一夜を過ごした「何某の院」河原院であると教え、源氏と夕顔の上の契りのはかなさを語って姿を消す。僧が法華経を誦して申うと、夕顔の上の霊(後シテ)が現れ、露のようにはかなく秋の野のように淋しい我が身であったが、僧の申により成仏できたと感謝して、暁の雲の中へ消えていく。

鈍根草 (とんこんそう)
 主が太郎冠者を連れて鞍馬に参詣すると、宿坊で若荷の鮓が出る。太郎冠者は食べるが、主は鈍根草だから「いやだ」と生きている(利根草)を食べる。帰る時に主は刀を置き忘れ、太郎冠者がそれを拾って隠す。刀を忘れたことに気付いた主に、太郎冠者は鈍根草と利根草にまつわる樂特と阿難の伝説を語り、「利根草を食べた主は刀を忘れたが、鈍根草を食べた自分は忘れるどころか物を拾ったと刀を見せ、主に怒られる。」

殺生石 (せうじょうせき)
 僧玄翁(フキ)が上京の途中、那須野の原を通ると女(前シテ)が現れて「生き物を殺す殺生石に近づくな」と警告し、この石は鳥羽院の命を狙った玉藻の前という化生の者の執心であると言って姿を消す。玄翁が成仏するよう殺生石を申うと、殺生石が割れて野干(狐)の精魂(後シテ)が現れる。精魂は正体を安倍泰成にあらわされ那須野で退治されたことを懺悔に語り、申により悪心を捨て殺生をしないことを約束して石の中へ消える。

コロナウィルス感染対策にご協力ください。
 ○マスク着用・手指の消毒、受付での検温、ソーシャルディスタンスの確保をお願いいたします。 ○チケット半券は連絡先記入のうえ、回収箱へお入れください。
 ○楽屋への面会はご遠慮ください。 ○上演形態が常とは異なる場合がございます。

FAX専用 申込み用紙 第42回 名古屋金春会 チケット申込み致します。 Fax: ●059-365-9102

●正面指定席5000円 枚 ●中・脇正面自由席 一般4000円 枚 ●学生3000円 枚 合計 円

ご住所

お名前 電話番号・メール

●チケット(税込)●
 正面指定席5000円、中・脇正面自由席 一般4000円 学生3000円

●前売券取扱所●
 名古屋能楽堂 Tel.052-231-0088
 名古屋金春会 (ハヤシ) Fax: 059-365-9102 E-mail: nagoya.konparukai@gmail.com

警告 主催者の許可なき撮影、録音等の行為は、一切禁止です。発見した時には、お預かりさせていただきますので、ご注意ください。



■来年度予定■ 令和4年11月6日(日) 名古屋能楽堂 名古屋市中区三の丸一丁目1番1号 TEL 052-231-0088 FAX 052-231-8756